

地域ネットワークだより



燃ゆる感動

かごしま国体・かごしま大会

—— 特別国民体育大会 ——

—— 特別全国障害者スポーツ大会 ——



鹿児島で半世紀ぶりとなる国内最大のスポーツの祭典「燃ゆる感動 かごしま国体」が10月7日に開幕しました。鹿児島市の白波スタジアムで行われた総合開会式の模様をMBCは1時間半の生中継番組でお伝えしました。式典前演技では天皇皇后両陛下のご臨席のもと、約1,700人の県民が色とりどりの衣装に身を包んで鹿児島の豊かな自然や文化、歴史などの魅力を歌と踊りで表現。航空自衛隊のブルーインパルスが祝賀飛行したあと、47都道府県の選手団の入場行進がありました。最後に400人を超える鹿児島県選手団が入場するとスタンドからは割れんばかりの声援が送られていました。



かごしま国体では37の正式競技と1つの特別競技が25の市と町で行われました。MBCは全ての競技を取材し、剣道競技4冠をはじめ優勝ラッシュに沸いた県勢の活躍をテレビ、ラジオ、インターネットで速報しました。「かごしま4」ではオリンピックの迫田さおりさんが、その日密着した競技の様子を生中継でレポートしたほか、「MBCニュースナウ」も連日、特集で詳しくお伝えしました。また10月18日(水)午後8時からの「どんと鹿児島」も県勢の活躍や国体の舞台裏などを総集編にまとめて放送しました。



▲弓道少年女子遠的で優勝



▲ボクシング競技2冠



▲指宿市会場



▲霧島市会場

ラジオは会期中、各会場のおもてなしの様子をラジオカー・ポニー号の生中継でお伝えしました。ソフトボール競技などが開かれた指宿市では地元のボランティアらが特産のかつお節と麦みそに緑茶を注いだ郷土料理「かつお茶ぶし」を振る舞い、馬術競技が行われた霧島市牧園町では鹿児島茶が振る舞われました。この中継の様子はラジオ番組「モーニングスマイル」のSNSで見ることができます。



mbc_morningsmile

MBC ふるさとプロジェクト 第5弾

～伝統の十五夜行事～

坊津ウィーク

9/25(月)～10/1(日)

MBCは今年度、市町村と連携してテレビ・ラジオ・web・SNSなどで地域の魅力を発信しふるさとを元気にする集中プロモーション「MBCふるさとプロジェクト」を行っています。



第5弾は、薩摩半島の西南端に位置する歴史と絶景の港町、南さつま市坊津を紹介しました。坊津の各集落では旧暦の8月をむかえると十五夜の準備で活気づきます。それぞれの集落に独自の十五夜行事が受け継がれていて、ふるさとを離れた人も祭りのために帰省するなど正月より賑わい華やかといわれています。



▲十五夜準備が進む



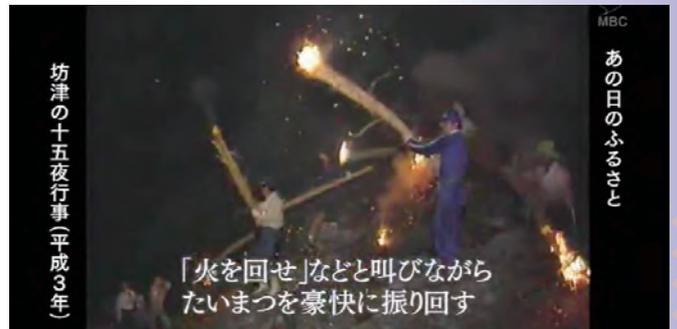
▲九玉神社への宮参り



坊津ウィークでは、南さつま市の本坊輝雄市長がテレビ番組「かごしま4」(月～金 午後3時49分～)に生出演し、坊津や十五夜行事の見どころを紹介。「あの日のふるさと(月～金 午後6時55分～)」では上之坊集落に伝わる十五夜行事「火とぼし」の30年前の映像など、坊津の懐かしい風景をお届けしました。またラジオ番組「城山スズメ(月～金 午後1時30分～)」では、映画007のロケ地として知られる秋目集落で民宿を営む上塘照哉さんや東京から移住してきた地域おこし協力隊員の堀内元気さんに電話インタビューしました。



▲かごしま4 南さつま市本坊市長出演



▲あの日のふるさと 上之坊集落に伝わる火とぼし(平成3年)

9月30日、泊集落ではぼつかりと浮かんだ満月の月明りのもと、地域の人たちが総出で踊りや綱引きなど伝統の十五夜行事を楽しんでいました。坊津の十五夜行事の様子は、「ダイドーグループ日本の祭り 望月一夜～坊津の十五夜行事～」として10月29日(日)にMBCテレビで放送します。



▲集落総出で行われた綱引き



日本の祭り 選定の証 贈賞式

第56回 MBC賞表彰式

第56回 MBC賞表彰式

MBCと公益財団法人MBC島中文化基金は、経済や社会・文化・教育・芸術・スポーツなどの各分野で地域の発展に貢献し、今後の発展が期待される個人や団体にMBC賞をお贈りしています。



1968年にMBCの創立15周年を機に創設され、これまでに105団体と個人56人を表彰しています。今年受賞した2団体と2人をご紹介します。

団体 一般社団法人 リバーバンク

南九州市のリバーバンクは、旧長谷小学校で音楽やアート、クラフト、食などを楽しむグッドネイバースジャンポリーをきっかけに地域内外の有志が集まって2018年に発足しました。2つの廃校の管理運営のほか、サマーキャンプなどのイベント、空き家の再生事業を活動の柱としています。

地域内外から約2,000人が参加するグッドネイバースジャンポリーは、鹿児島県のカルチャーを全国に発信するイベントに育ったほか、空き家再生事業では11棟の改修に携わり、約40人が移住してきています。

これらの取り組みは地域の活性化に大きく貢献していると高く評価されました。



坂口 修一郎 代表理事

団体 NPO法人 がんサポートかごしま

鹿児島市のがんサポートかごしまは、理事長の三好綾さん自身が乳がんを患った経験から、鹿児島のがん患者やその家族への心身のケアを地域全体で支える基盤を作ろうと設立されました。地域や医療機関内でがん患者サロンを運営し、患者や家族、遺族同士がお互いの悩みを分かち合い、支えあう場を提供しています。また、子どもたちを対象にがんの正しい知識や命の大切さについて学ぶ「いのちの授業」を行っているほか、医学教育や様々な啓発活動、がんに関する政策提言にも積極的に関与するなど、がん患者やその家族を支える多角的な取り組みが高く評価されました。



三好 綾 理事長

個人 作曲家・編曲家 吉俣 良さん



1959年、鹿児島市生まれの吉俣良さんは、2008年の大河ドラマ「篤姫」の音楽を担当し、その名曲の数々は、篤姫という女性だけでなく、彼女を育んだ薩摩を強烈に印象づけ、ドラマの大ヒットの一翼を担うとともに、鹿児島県の認知度向上や観光客の誘客に貢献しました。

多数のドラマ作品などの音楽制作に携わったほか、2015年には「国民文化祭かごしま」のテーマ曲を担当。今年2月には、「ほこらしや奄美音楽祭」で総合プロデューサーを務めたほか、「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」では、式典音楽を手がけるなど、音楽を通じた鹿児島県の文化・地域振興への貢献が高く評価されました。

個人 鹿児島大学名誉教授 志賀 美英さん

1982年に鹿児島大学に赴任した志賀美英さんは、助教授や教授を歴任しながら、国内外で鉱物資源を調査研究し、鉄や銅、金、銀、錫、レアメタルなど、数多くの鉱石を採取してきました。特に18世紀初頭に島津家直営となり、薩摩藩の近代化を支えた鹿児島市錫山地区の錫鉱山には情熱を注ぎ、定年退職後は、自宅の一部を改装した「鉱石展示室」を拠点に、鉱山や鉱山遺構の現地見学会を開催するなど、鉱物資源に対する市民の関心を高める活動を続けています。錫山などの鉱山遺構は鹿児島県の貴重な産業遺産でもあり、その取り組みが高く評価されました。



テレビ番組「かごしま4（月～金/午後3時49分～）」で放送した各地のメディア発の話題です。

キッズ
ファッション
ショー
わどコレ



ERABU サンサンテレビ (9月21日放送)

8月27日、沖永良部島・和泊町では6歳になる子どもたちがモデルを務めるキッズファッションショー「わどコレ」が開かれました。

「わどコレ」は、町の連合青年団が子どもたちに独創性と舞台に立つ度胸を身につけてもらおうと主催しました。ドルチェ&ガッバーナなどの世界的ブランドの舞台でモデルとして活躍する前田一翠さんがコーディネーターを務め、子どもたちはまず前田さんの指導で衣装づくりに挑戦しました。白いワイシャツに思い思いの染料を垂らして、世界で一着だけの衣装を作りました。

翌日、笠石海浜公園のステージにはレッドカーペットが敷かれ、子どもたちは自分で染めた衣装で登場。音楽に合わせて堂々と歩きます。本番に向けた練習は1回だけでしたが、中にはボーイングを決める子どももいて、会場からはひととき大きな歓声が上がっていました。連合青年団は今後もこのイベントを続けていきたいとのことです。



国体会場を
彩る高校生の
取り組み



勝手にのおおすみプロモーション (9月29日放送)

燃ゆる感動 かごしま国体・かごしま大会では、各地で熱戦が繰り広げられただけではなく、それぞれの土地で心のこもったおもてなしがありました。「勝手にのおおすみプロモーション」の宮内ありさんは鹿屋農業高校の生徒たちの「花いっぱい運動」を紹介してくれました。

同校の園芸科の生徒たちは、大会の会場や周辺道路などを花々でいっぱいにし、鹿児島へ来る人たちを歓迎しようとマリーゴールドやサルビアなど約8,000本の苗を育てました。ある程度育てたところで地元自治体や町内会などに世話を引き継ぐ花育てリレーで、9月には立派な花が咲きました。こうして咲かせた花々は国体会場を彩っただけではなく、生花を白布に押し当てる「うつし染め」で応援手旗も作りました。

園芸科3年生の長峯飛翔さんは「僕たちが育てた草花を見て練習以上の成果を出してもらえたら」と話していました。



徳之島ワイドな人々
闘牛女子



スタジオカガワ (10月3日放送)

徳之島天城町の田中未来さんは高校を卒業後、いったんは福岡市の専門学校に進学しましたが、その後地元に戻り、会社員として働きながら闘牛の世話をしています。徳之島で飼育されている牛は約300頭。家族や親戚、友人、知人が共同で飼うケースが一般的で、未来さんも知人たちと一緒に飼育しています。エサやりから散歩、ブラッシングと1トンちがい巨体の世話は手間がかか

りますが、未来さんは自分が飼育する牛が可愛くて、かつこいと語ります。

徳之島では牛を飼う若い闘牛女子が増えているということで、未来さんの当面の目標は、自分が成人式を迎える来年1月の「成人記念闘牛大会」に出場することだそうです。

